

1 全日本高等学校女子サッカー選手権大会の再誘致と磐田U-12国際サッカー大会の継続について

(1) 全日本高等学校女子サッカー選手権大会の再誘致について

全日本高等学校女子サッカー選手権大会の2017年以降の開催予定地の情報と当市の再誘致の取り組み状況について伺う。

(2) 磐田U-12国際サッカー大会の継続について

- ① 磐田U-12国際サッカー大会を継続開催する考えはあるのか伺う。
- ② 継続するとした場合、当市で開催する理由とそのメリットについて伺う。
- ③ 継続するとした場合、他の開催地・大会とは違う、磐田市の特色を出した大会とする必要があると思うが、考えを伺う。
- ④ 今大会の参加は12チームであった。大会を継続するには国内外からさらに多くの出場チームを迎える必要がある。ジュビロ、市・県サッカー協会、商工会議所との連携はどのように行っていくのか伺う。
- ⑤ 大会開催に関する財政面についての考えを伺う。
- ⑥ 過去に当市で開催した高校女子サッカー選手権大会や今回のU-12国際サッカー大会は市民の観戦者が少ないと感じた。大会の成功には市民が関心を持ち、市民の支援と協力が不可欠であると考え。そこで、ポスターの掲出や広報いわたの活用など市民への積極的なPRの展開について考えを伺う。

2 防災訓練内容の見直しと中学生と高校生の訓練参加と防災活動参加について

(1) 防災訓練に参加者を増やす仕組みづくりと市民への啓発について

防災訓練は自治会や自主防災会の役員のみならず小学生から大人まで多くの市民が参加する訓練にしなければならない。

① そのためには、楽しみながら訓練に参加する方法を探る必要がある。

例えば、〇×防災クイズや担架搬送リレー、緊急物資搬送リレー、バケツリレーなどのプログラムを取り入れることが必要である。訓練内容の見直しについての考えを伺う。

② 外国の方や障がいを持つ方の参加が必要と考えるが見解を伺う。

③ 多くの市民が防災訓練の趣旨をよく理解し、かつ自主的な参加を促す啓発が必要であると考えが見解を伺う。

(2) 中学生と高校生の訓練参加と防災活動参加について

防災活動には若い力が不可欠であり、地域を守る大きな力となる可能性を持っている。中学校及び高等学校との連携を模索し、学校が地域の中にあり共存しているということを生徒に自覚させ、協働による防災活動を積極的に推進していくことが必要であると考え。現在一部の中学生が訓練に参加しているが、中学生及び高校生の訓練参加と防災活動の参加について考えを伺う。

(3) 夜間訓練の実施について

言うまでもなく災害は昼間だけでなく、阪神淡路大震災は早朝に、熊本地震は夜の9時頃、新潟中越地震は夕方6時頃であった。時には夜間の防災訓練が必要であると考えが見解を伺う。

(4) 訓練後の反省会について

訓練後に問題点や反省点など出し合い、次回に繋げなければならない。各地区における反省会の開催に向けた行政指導が必要と考えが見解を伺う。

3 上水道消火栓を使った消火訓練について

- (1) 災害時の火災発生において、住宅密集地などでは建物・塀等の倒壊によって消防車の通行が困難となり、消防車の消火は難しいとされている。自主防災会はそのことを想定し訓練に励んでいる。しかし、自主防災会が保有する可搬ポンプの能力は高くはなく、ホースは最大5本程度とホースの延長にも限りがある。また、防火水槽は自主防災会に概ね1から2カ所程度であり、防火水槽から離れた地域での消火は困難である。これらから、自主防災会は地震時の火災発生に対応する能力は高くはない。

このことから、自主防災会は災害時の火災には、消火栓を使つての消火を考えざるを得ない。そのために備え、消火栓を使った訓練が重要である。しかしながら、自主防災会が消火栓を使つての消火訓練は上水道水の濁りなどの問題から、実施が難しい状況にある。

そこで、消火栓使用の訓練を行う月日・時間帯を限定し、前もって、市民に水が濁る場合があることを知らせ協力をお願いする。そうした消火栓を使つての消火訓練を行うべきと考えるが見解を伺う。